

# 独立行政法人国立病院機構埼玉病院

## 公的医療機関等 2025 プラン（2022 年版）

### ○基本情報

#### 【独立行政法人国立病院機構埼玉病院の基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構埼玉病院

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：埼玉県和光市諏訪2番1号

許可病床数：550床

（病床の種別） 一般550床

（病床機能別） 高度急性期70床、急性期480床

稼働病床数：547床

（病床の種別） 一般547床

（病床機能別） 高度急性期67床、急性期480床

診療科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、内視鏡内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、内視鏡外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、緩和ケア内科、病理診断科、救急科、総合診療科、歯科口腔外科、腫瘍内科、血液・膠原病内科、腎臓内科

職員数：1,150人（2023年1月1日現在）

- ・ 医師 191人
- ・ 研修医 20人
- ・ 看護職員 603人
- ・ 薬剤師 36人
- ・ 診療放射線技師 32人
- ・ 臨床検査技師 25人
- ・ 管理栄養士 11人
- ・ 理学療法士 18人
- ・ 作業療法士 9人

・ 言語聴覚士	6人
・ 視能訓練士	3人
・ 臨床工学技士	14人
・ 心理療法士	2人
・ 歯科衛生士	2人
・ 福祉職	9人
・ 診療情報管理士	10人
・ 事務職	122人
・ 技能職	37人

## 1. 現状と課題

### ①当該病院（自施設）の現状

#### ・ 国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は 国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに 患者の目線に立って懇切丁寧に 医療を提供し 質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

#### ・ 埼玉病院の理念

この地の人々の健康といのち、そして安心の場所を守る

#### ・ 埼玉病院の基本方針

1. 継続的な医療の質の向上
2. それを支える経営の質の向上
3. 患者さん家族主義
4. 職員家族主義
5. 地域家族主義
6. 地域に密着した急性期・高度専門医療の提供
7. チーム医療を主体的に実践できる医療人の育成

- ・ 診療実績 届出入院基本料：急性期一般入院料 1（7 対 1）  
平均在院日数：12.9 日 病床稼働率：85.2% 手術件数：6,748 件（2021 年度実績）
- ・ 地域内での役割・機能
  - ・ 地域医療連携  
埼玉県南西部医療圏唯一の地域医療支援病院として、地域の医療機関・患者が受診しやすい体制の整備に努めている。地域医療連携システムとして、各種の画像診断、生理機能検査や栄養相談、および各診療科の専門医による外来診療をインターネットで 24 時間いつでも予約できるカルナシステムを構築・活用しており、2021 年度は延べ 4,000 件を超える医療機器の共同利用実績を有している。
  - ・ 救急医療  
2021 年 3 月に埼玉県から救命救急センターの指定を受け、同年 5 月より救命 ICU（救命救急入院料 2）8 床、救命 HCU（救命救急入院料 1）16 床、あわせて 24 床の救命救急センターとして運用を行っている。3 次救急医療を含めた 24 時間の救急医療体制を整備し、2021 年度は年間 5,200 件超の救急搬送患者を受け入れており、区域内の救急医療の最後の砦として、断らない救急を目指している。
  - ・ 災害医療  
地域災害拠点病院として指定を受け、災害医療支援のため、24 時間対応可能な体制を確保している。また、BCP（事業継続計画）を定め、災害時に可及的速やかに診療を再開できるよう体制を整備している。
  - ・ 循環器疾患  
循環器病センターを設置し、CCU を開設、24 時間 365 日循環器科医師が常駐し、救急患者を受け入れ、また、麻酔科のオンコール体制を整備し、緊急の心臓血管外科手術を常に実施可能とし、構想区域内の循環器疾患の中心施設となっている。
  - ・ 脳血管疾患  
脳卒中センター、脳神経・認知症センターを設置し、平日夜間の当直時間帯は脳外科医師を配置し、脳血管疾患に対して質の高い医療を提供している。
  - ・ がん疾患  
消化器系がん、肝・胆・膵がん、肺がん、乳がん、子宮・卵巣がん、前立腺・腎臓がん、脳腫瘍、皮膚腫瘍等について、手術、放射線治療、化学療法、緩和治療など地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん医療を提供している。
  - ・ 小児疾患/周産期医療  
新生児の診察、予防接種、急性疾患の外来、入院での治療から慢性疾患の管理まで、地域の子どもたちが健やかに成長できるよう幅の広い診療を行っている。小児二次救急医療では埼玉県・朝霞地区四市、慶應義塾大学との間で寄附講座による協定を締結。小児科医師の確保を行い、365 日患者を受け入れる体制として、地域の小児救急の最後の砦となっている。

また、NICU を開設し、院内だけでなく地域の病院で生まれた 28 週前後の早産児、体重 1000g 前後の低体重児を受け入れている。

周産期については 2015 年 10 月より地域周産期母子医療センターの認定を受け、MFICU を整備し、ハイリスク分娩、未熟児の治療を行っている。(2021 年度：分娩件数 702 件、母体搬送受入件数 153 件)

- ・エイズ

エイズ治療拠点病院として、県から選定され、医療を提供している。

- ・国際規格 ISO 認証取得

国際規格 ISO の 9001 マネジメントシステム(質マネジメント)、また、臨床検査室の国際規格 ISO15189 の認証を取得しており、臨床検査の質と能力について、国際規格に適合していることの第三者評価を受けている。

## ②当該病院（自施設）の課題

- ・第 6 次埼玉県地域保健医療計画に基づく 200 床増床計画が 2021 年 5 月の救命救急センター運用開始により終了し、急性期及び高度急性期機能を中心とする 550 床の医療機関として安定的な運用を目指している。

- ・救急医療については、3 次救急はもとより 2 次救急においても、断らずに患者の受け入れを行う体制を整える。

- ・地域包括ケアシステムの構築にあたり、急性期から回復期、更には地域への円滑な移行を行うことが急性期病院としての責務であるため、後方医療機関、訪問看護ステーション、地域のケアマネージャー等の地域の医療・介護機関とのつながりの強化が急務である。

## 2. 医療機能ごとの病床数

時点	病床数	医療機能別					区分別	
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	一般	療養
2022 年 7 月 1 日 時点	550 床	67 床	480 床	0 床	0 床	3 床	550 床	0 床
2025 年 7 月 1 日 時点	550 床	66 床	484 床	0 床	0 床	0 床	550 床	0 床

※令和 4 年度病床機能報告の数値を入力

### 3. 今後の方針

#### ①地域医療構想を踏まえた当該病院（自施設）の地域において今後担うべき機能・役割

##### ・がん疾患

地域がん診療連携拠点病院として、がん患者を積極的に受け入れ、手術・化学療法・放射線治療など集学的ながん診療を行っていく。手術支援ロボットの導入など、専門性の高い治療を推進する。

##### ・循環器疾患

救急対応拡大と充実に伴い、脳血管疾患、循環器疾患の患者の急増が見込まれる中、特に脳卒中、急性心筋梗塞に対する専門医療の提供体制を強化していく。

##### ・小児（救急）医療

24 時間体制での 2 次救急に加え、朝霞地区医師会と連携した時間外の一時救急を行っており、今後も地域の小児救急の中核的機能を堅持する。

##### ・周産期医療

地域周産期母子医療センターの認定を受け、MFICU3 床、NICU12 床を整備して周辺機関からの緊急症例を受け入れており、引き続き円滑な受け入れ体制を整える。

##### ・救急医療

区域内で初の救命救急センターとして、救急患者の受け入れ体制の整備を行うことにより、地域内での救急医療の維持及び持続可能で効率的な救急医療体制を構築し、年間 5,000 件超の救急搬送を受け入れる。

##### ・緩和ケア医療

がん診療連携拠点病院として 20 床の緩和ケア病棟を整備しており、がん患者の増加が今後も見込まれる中、がん等の緩和ケアを推進する。

#### ②①を踏まえた今後の方針

（病床機能や診療科の見直し、他病院との連携の方針、その他見直しの予定等）

- ・現在担っている地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、循環器病基幹医療施設、地域周産期母子医療センター、救命救急センター等の役割を継続し、今後も高度急性期、急性期の病床機能を維持する。

#### ③その他の数値目標について

- ・①②に関連する当該病院（自施設）で設定している数値目標

##### 医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 90% 参考：(2021 年度) 85.2%
- ・ 手術室稼働率： 65% 参考：(2021 年度) 57%
- ・ 手術件数： 7,200 件 参考：(2021 年度) 6,748 件
- ・ 紹介率： 80% 参考：(2021 年度) 74.8%
- ・ 逆紹介率： 100% 参考：(2021 年度) 109.0%

#### 4. 新興感染症への取組

##### 自由記載

新型コロナウイルス感染症に対する当院の取り組みでは、2020（令和2）年2月始めに中国武漢市からチャーター便で帰国し、保健医療科学院や税務大学校で隔離された体調不良者を受け入れるなど、2020年当初より積極的に患者を受け入れており、これまで、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として最大72床、新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関として最大10床を確保し、2021年度までに1,117名の入院患者を受け入れているほか、朝霞地区医師会と連携しPCRセンターを開設、発熱外来及び地域のPCRセンターとしての役割も担っている。

また、埼玉県の要請に基づきクラスターが発生した老人介護施設等へ出向き感染対策のアドバイスを行うコロナ対策チーム（COVMAT）へのスタッフ派遣を実施するなど、地域における新型コロナウイルス感染症対応にも積極的に取り組んでいる。

#### 5. その他

##### 自由記載

埼玉病院は「この地の人々の健康といのち、そして安心の場所を守る」の理念のもと、新館の建設計画を進め、2018年10月新館竣工、その後の本館の改修を経て2021年4月550床のフルオープンに至った。2022年5月には地域初の救命救急センターを開設した。今後はロボット支援手術の導入、救急応需体制の更なる強化により、地域の中核病院として“地域に根ざした病院づくり”を行っていききたい。